



# 基金決算のお知らせ

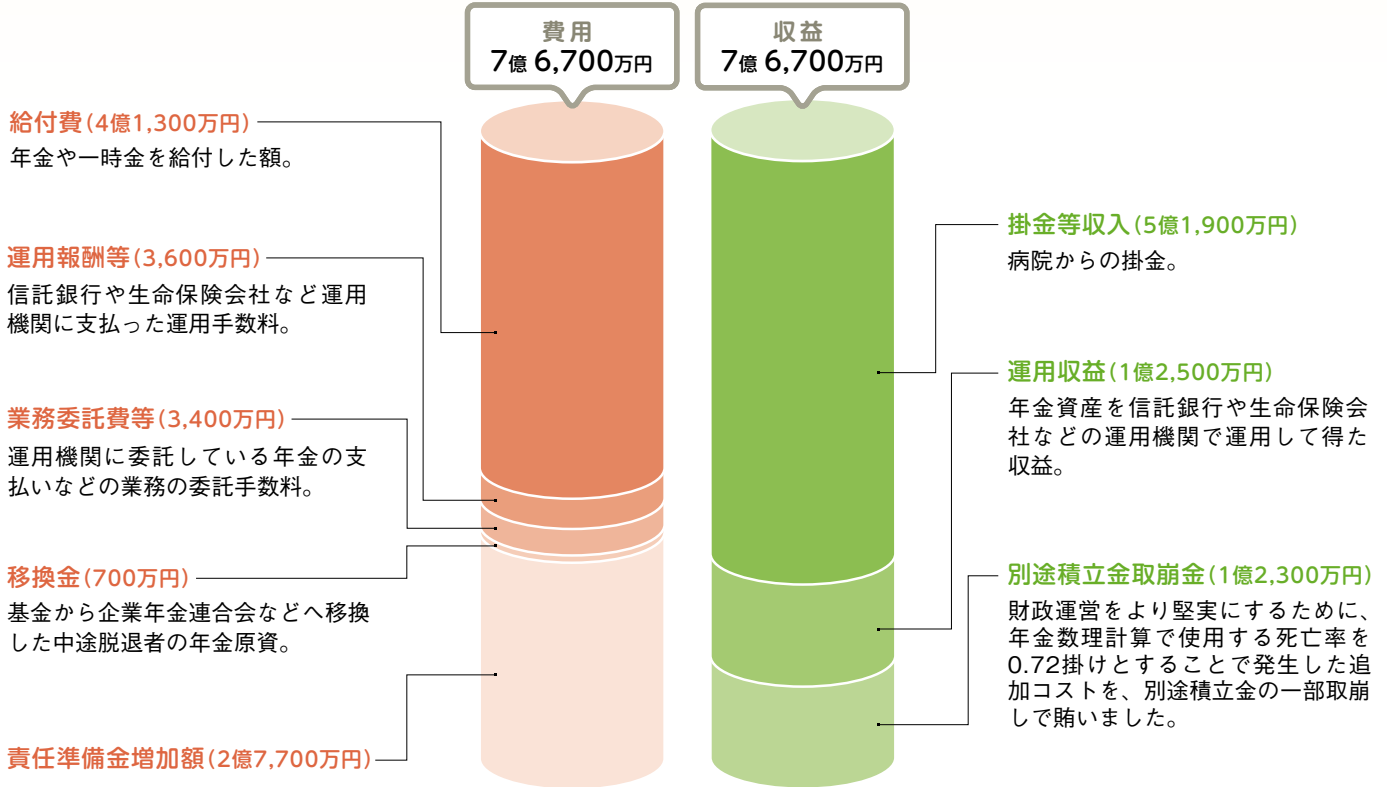


## 年金経理

年金の給付や掛金の受け入れ、年金資産の管理運用などを行う経理です。

### 1年間の収支状況 (損益計算書)

基金の主な収入源である掛金、支出である年金・一時金の支払いのほか、年金資産の運用損益などの1年間の収支を明らかにしています。

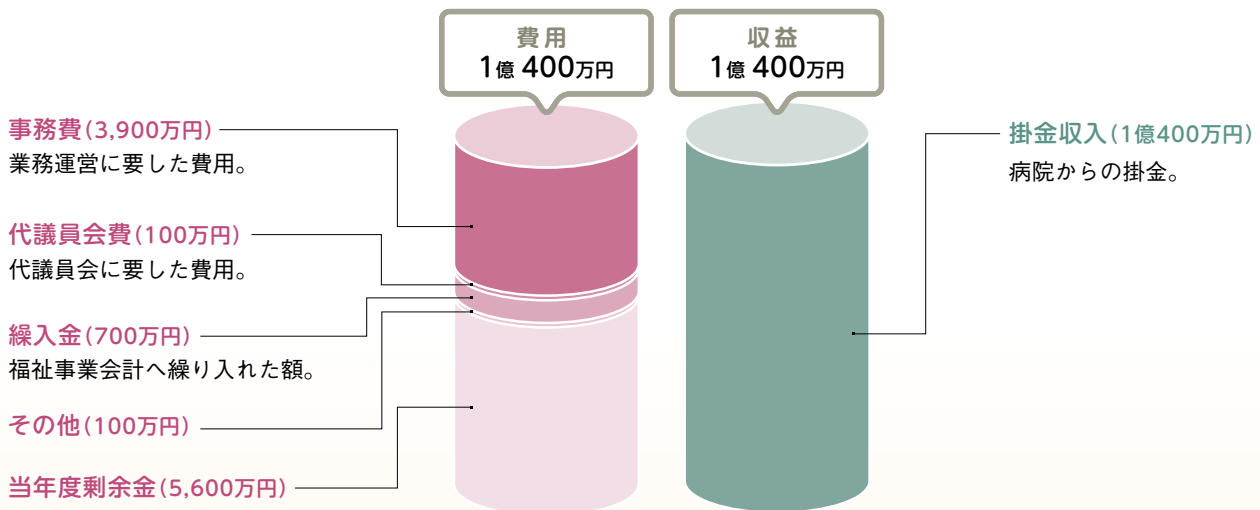


## 業務経理

### 業務会計

基金を運営するための経費を処理する会計です。

基金の運営に当たっては、各種費用の見直しを行い経費削減に努めました。

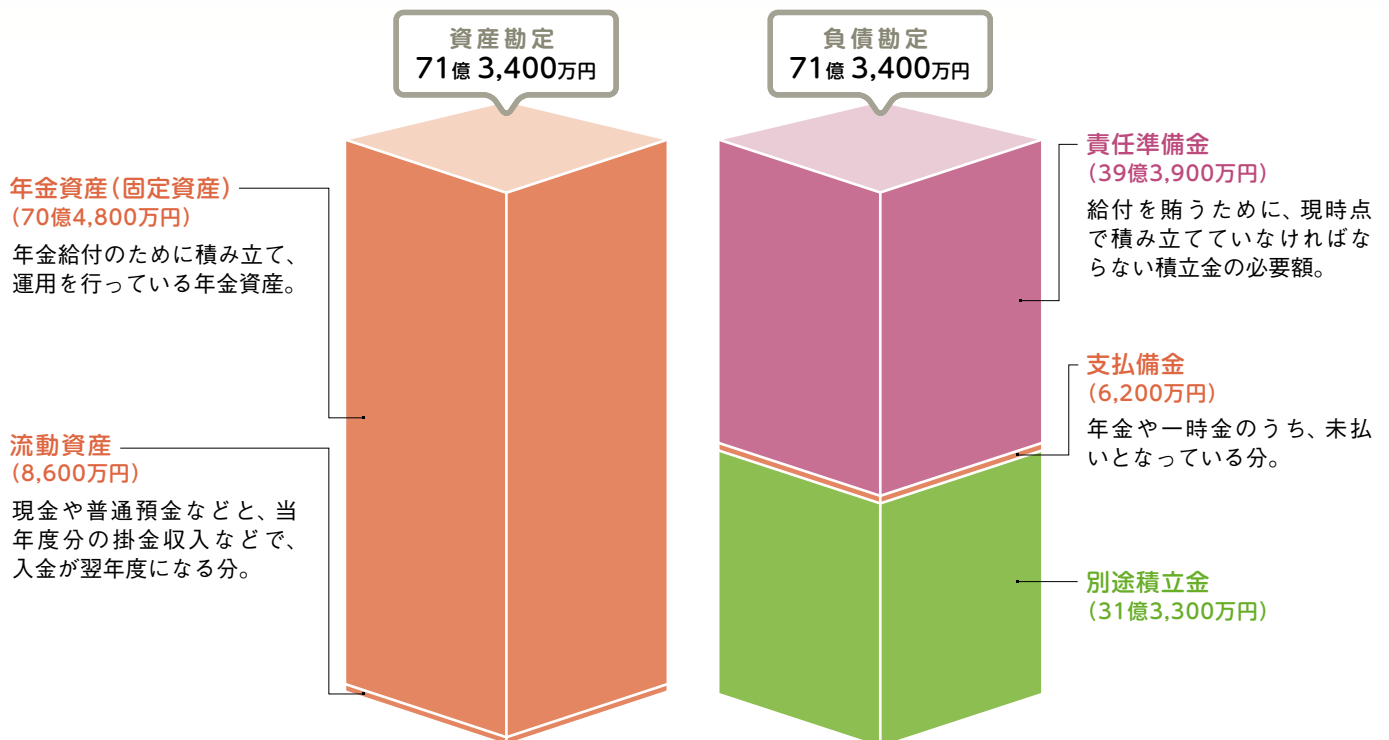


7月19日に開催されました第12回代議員会において、当基金の令和3年度の決算および財政検証結果が承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

## 資産と負債のバランス (貸借対照表)

年度末において、実際に保有する年金資産と、将来の年金給付のために積み立てておくべき資産（財政均衡下限額）を比較し、基金財政が健全に推移しているかをチェックします。

■ 純資産：(固定資産+流動資産)-(流動負債+支払備金) ■ 負債 ■ 基本金



## 基金では財政検証を 実施しています

基金では、加入者・受給（権）者の皆さまの受給権保護のために、決算期ごとに年金資産の積立状況を2つの方法（継続基準、非継続基準）で検証しています。検証の結果、基準値をクリアしていない場合は、積立計画の見直しが必要になります。

### 継続基準

将来の給付のために保有しておくべき年金資産（財政均衡下限額）が、計画通りに積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{財政均衡下限額}} = 1.79 \quad (\text{基準値：1.0以上})$$

### ● 検証結果

純資産額が財政均衡下限額を上回っており、基準値をクリアしています。年金資産は順調に積み立てられており、掛金の見直しを行う必要はないことが確認されました。

### 非継続基準

現時点で基金が解散したと仮定した場合、加入者・受給（権）者の加入期間に応じた給付に必要な資産（最低積立基準額）を保有しているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{最低積立基準額}} = 2.05 \quad (\text{基準値：1.0以上})$$

### ● 検証結果

純資産額が最低積立基準額を上回っており、基準値をクリアしています。積立水準を確保するための措置を行う必要はないことが確認されました。



## 当基金の資産運用結果のお知らせ



令和3年度における当基金の年金資産運用の利回りは1.78%となりました。今後も市場の動向を注視しつつ、適切なリスク管理の下、安全かつ効率的な運用と収益の確保に努めてまいります。

## ■ 運用機関別委託割合・委託額

(2022年3月31日現在)

運用機関		委託割合	委託額 (百万円)	
信託銀行	三菱 UFJ 信託	自社運用	32.9%	2,317
		外部提携	32.3%	2,278
	三井住友信託	外部提携	9.9%	695
	りそな銀行	自社運用	1.8%	126
	みずほ信託	外部提携	11.0%	772
生命保険会社	第一生命保険	自社運用	11.5%	809
		外部提携	0.7%	51
合計		100.0%	7,048	

## ■ 令和3年度末 資産構成割合

国内債券 867百万円 (12.3%)	国内株式 596百万円 (8.5%)	外国債券 906百万円 (12.8%)	外国株式 941百万円 (13.3%)	生保一般勘定 675百万円 (9.6%)	オルタナティブ投資 2,960百万円 (42.0%)
					その他 103百万円 (1.5%)

## ■ 当基金の年金資産管理運用委員会の活動報告

当基金では、年金資産の運用基本方針、政策アセットミックスの策定、資産運用を委託する運用機関の選定や評価などについて検討する「年金資産管理運用委員会」を設置しています。令和3年度は、右記の議題等について検討しました。

## 【主な議題内容】

- 運用の基本方針、資産運用計画について
- 資産構成割合（政策アセットミックス）の策定について
- 委託先運用機関の選定について
- 資産運用結果について

## ■ 運用の基本方針 (概要)

目的	当基金の年金給付および一時金の支払いを将来にわたり確実にを行ううえで必要とされる積立金を確保するために、運用収益を長期的に確保することを目的としています。
目標	将来にわたって健全な年金制度運営を維持するために必要な年金財政上の予定利率を目標とし、これを長期的に上回ることをとしています。
資産構成	運用目標を達成するため、運用資産の期待収益率、リスク、相関係数等を考慮し、長期的観点から政策的資産構成割合（政策アセットミックス）を定めています。

## &lt;参考&gt; 令和3年度の市場動向

国内外株式は、新型コロナウイルスのワクチン接種拡大による経済活動の正常化や今後の経済政策に対する期待感などから上昇しました。後半に入ると、経済活動の再開を受けた世界的な景気回復による資源価格の高騰やロシアのウクライナ侵攻を背景に低調となりました。一方、国内外債券は、ほぼ横ばいで推移しました。

## 【市場の収益率】

令和4年3月31日現在

		令和3年度	令和2年度
国内	債券 (NOMURA-BPI)	△1.22%	△0.70%
	株式 (TOPIX + 配当)	1.99%	42.13%
外国	債券 (FTSE WGBI、円換算後)	1.96%	5.43%
	株式 (MSCI kokusai、円換算後)	22.95%	59.79%

(資料) 企業年金連合会ホームページ

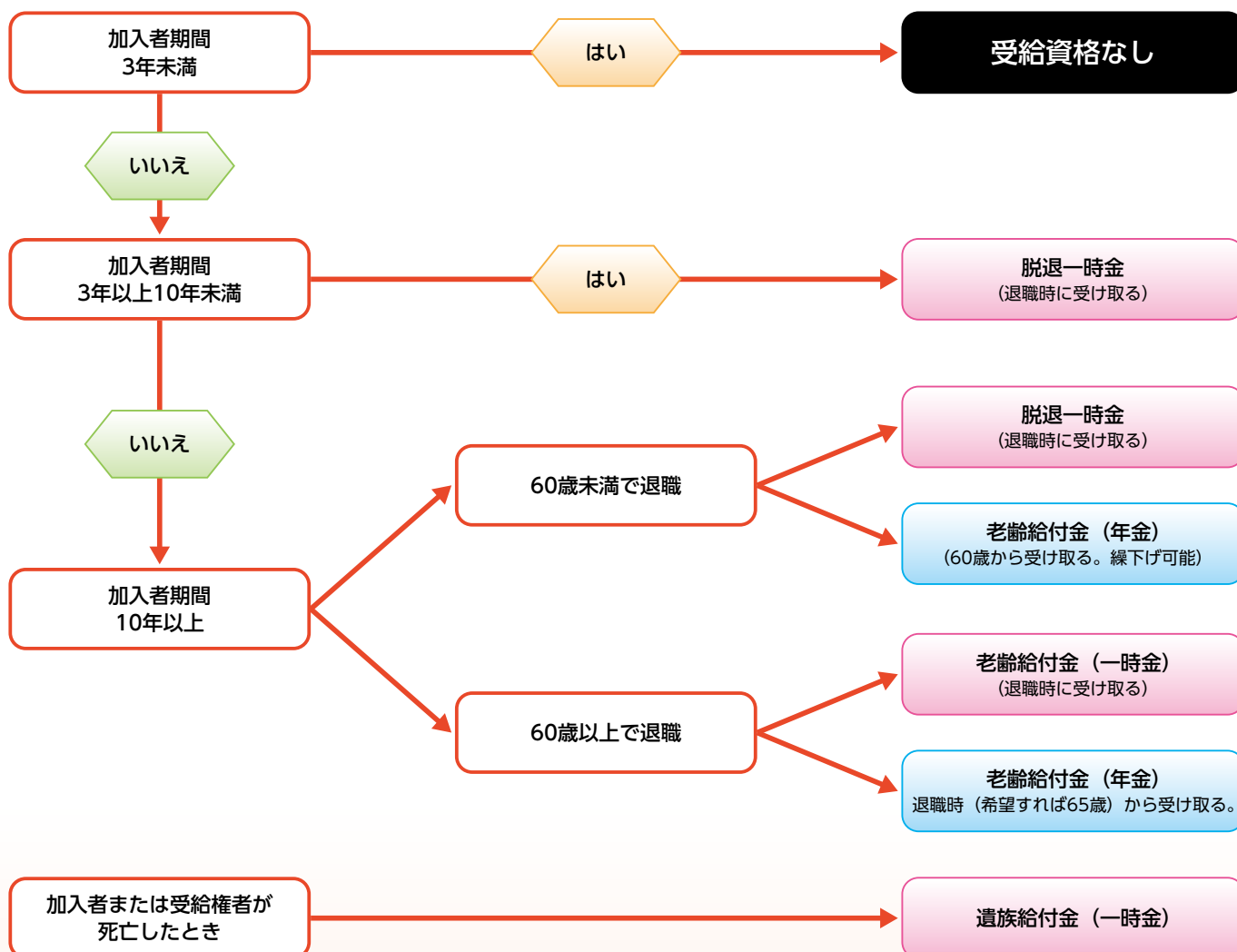
# 鹿児島県病院企業年金基金の業務概況

## 1. 制度の概要について

(2022年3月31日現在)

(給付の設計)

支給要件			給付種類	給付の内容	支給時期
加入者期間	年齢	事由			
3年以上 10年未満	—	退職	脱退一時金	一時金	即時
		死亡	遺族給付金		即時
10年以上	60歳未満	退職	脱退一時金	一時金	即時
			老齢給付金	確定年金（または一時金）	60歳（繰下げ後65歳）
	60歳以上 65歳未満	退職	老齢給付金	一時金	即時
				確定年金（または一時金）	即時（繰下げ後65歳）
	65歳	退職	老齢給付金	確定年金（または一時金）	即時
65歳超	退職	老齢給付金	確定年金（または一時金）	繰下げ後退職時	
—	死亡	遺族給付金	一時金	即時	



(モデル給付額) 22歳新規加入 (加入者期間、給付期間とも、想定利回り2.0%の場合)

(単位：円)

給付の種類	加入者期間	年金給付額(60歳支給開始)				一時金(退職時)
		5年確定(年額)	10年確定(年額)	15年確定(年額)	20年確定(年額)	
脱退一時金	5年					242,500
老齢給付金	10年	102,200	53,600	37,500	29,500	481,400
	15年	160,500	84,200	58,900	46,300	756,200
	20年	226,900	119,100	83,300	65,400	1,069,100
	30年	386,300	202,700	141,700	111,400	1,820,500
	38年	542,200	284,500	198,900	156,300	2,555,500

## 2. 2022年3月期(2021年4月~2022年3月) 決算状況について (2022年3月31日現在)

(加入者数)

加入者(人)	10,592
--------	--------

(給付の状況)

		件数	金額(円)
老齢給付	年金	2,390	63,388,426
	一時金	1,231	90,234,400
脱退一時金		793	168,887,000
遺族給付	一時金	11	2,456,400

(年金受給者数)

老齢給付(人)	2,390
---------	-------

(掛金の徴収状況(納付時期：毎月月末))

(単位：円、%)

種類	規約上掛金率	納付決定額①	納付済額	不納欠損額	未納額②	②/①
標準掛金	1.4%	484,593,412	484,593,412	0	0	0.0%
特別掛金	0.1%	34,651,378	34,651,378	0	0	0.0%
事務費掛金	0.3%	103,954,134	103,954,134	0	0	0.0%
合計	1.8%	623,198,924	623,198,924	0	0	0.0%

## 3. 年金給付等積立金の積立概況

(2022年3月31日現在)

(貸借対照表(基本金処理後))

(単位：千円)

資産勘定		負債勘定	
純資産額	7,071,575	責任準備金	3,938,886
		別途積立金	3,132,689
合計	7,071,575	合計	7,071,575



## 4. 財政の検証状況について

(2022年3月31日現在)

- (1) 継続基準の財政検証：企業年金の財政運営を継続するうえで年金資産が計画通り積み立てられているかを検証します。
- (2) 非継続基準の財政検証：制度を終了すると仮定した場合に、加入者及び受給権者等に対して保全すべき給付を支給するために必要な年金資産が確保されているかを検証します。
- (3) 積立超過の財政検証：企業にとって損金算入される掛金を必要以上に払い込み続けるのは税務上問題があるため、年金資産額が積立上限額を超えていないかを検証します。

(単位：千円)

区分	当基金の水準	基準値	判定
継続基準	$\frac{\text{純資産額}}{\text{財政均衡下限額}} = 1.79$	1.00以上	○
非継続基準	$\frac{\text{純資産額}}{\text{最低積立基準額 (3,448,233)}} = 2.05$	1.00以上	○
積立超過	$\text{数理上資産額 (7,071,575)} \leq \text{積立上限額 (9,291,606)}$		○

それぞれにおいて基準を上回っているため、掛金見直しの必要はありません。

## 5. 年金給付等積立金の運用の概況

(2022年3月31日現在)

2022年3月期(2021年4月～2022年3月)の運用利回りは+1.78%となり、運用収益は+125百万円となりました。

(運用収益または運用損失)

(単位：百万円、%)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
運用収益・損失額	-7	-175	712	125	
利回り	-0.11%	-2.81%	11.53%	1.78%	

(資産別残高および資産構成割合)

(単位：百万円、%)

	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式	短期資産	オルタナティブ	一般勘定	資産合計
時価総額	867	596	906	941	103	2,960	675	7,048
構成割合	12.3%	8.5%	12.8%	13.3%	1.5%	42.0%	9.6%	100.0%
備考	受託機関：三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、みずほ信託銀行、りそな銀行、第一生命保険							

(政策アセットミックス)

(単位：%)

	国内債券	国内株式	外国債券	外国株式	短期資産	オルタナティブ	一般勘定	資産合計
構成割合	12.5%	9.0%	13.0%	13.5%	2.0%	41.0%	9.0%	100.0%

## 6. 運用の基本方針について

(2022年3月31日現在)

鹿児島県病院企業年金基金では次の方針に基づいて積立金を運用しています。

運用の基本方針（概要）	
目的	当基金の年金給付および一時金の支払いを将来にわたり確実にを行ううえで必要とされる積立金を確保するために、運用収益を長期的に確保することを目的としています。
目標	将来にわたって健全な年金制度運営を維持するために必要な年金財政上の予定利率を目標とし、これを長期的に上回ることをとしています。
資産構成	運用目標を達成するため、運用資産の期待収益率、リスク、相関係数等を考慮し、長期的観点から政策的資産構成割合（政策アセットミックス）を定めています。
年金資産管理運用委員会	リスク管理状況、運用受託機関の選定および評価、運用業務に係る遵守事項等チェックを目的で、年2回以上開催しています。議事内容については開催の都度ホームページに委員会資料を掲載しています。

## 2022年度政策アセットミックス

